

# 記載例

## ■ 構造計算適合性判定審査で「適合確定」後、建築主事指摘等により修正のあった箇所一覧表

物件名： \_\_\_\_\_

作成者： \_\_\_\_\_

提出日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

番号	修正項目	具体的修正内容	修正した箇所	
			計算書	構造図
1	小梁の設計	①検討No. 1：傾斜角修正、 $0^\circ \rightarrow 15^\circ$ ②検討No. 18：負担幅修正、 $1.9 \rightarrow 1.9/2$	P. 3-4, 3-7, 3-10, 3-15	—
2	sb340弱軸の検討	保有水平耐力時のP：19.0kN→21.0kN	P. 3-23, 3-23-1～3	—
3	地中小梁の設計	検討No. 3：サッシ荷重考慮無し→サッシ荷重考慮	P. 3-44～45	—
4	日型プレート補強の範囲	S-26：「継手部分は除く」を追記	—	S-26
5	横補剛材の検討	②RGB1, RGB2：sb29→sb34Aに変更 それに伴い、S-18屋根伏図を修正、S-25にsb34Aを追記 ③sb19の横補剛を無効とし、2G5, 2GB5について再度断面算定 ④sb29の横補剛を無効とし、2G12について再度断面算定 ③, ④に伴い、S-17の横補剛材を無効に修正 ⑤RG11の横補剛（火打ち材）について、 $\sqrt{2}$ 倍を考慮 それに伴い、S-25～26端部ボルト間隔 $pc=60 \rightarrow pc=80$ に変更	②P. 4-8～9 ③P. 211～212/431 ④P. 213/431 ⑤P. 4-13	S-17～18 S-25～26
6	風荷重を考慮した大梁弱軸の検討	2GB1長期検定比：0.48→0.52	P. 4-46 P. 210/431	—
7	基礎偏心により地中梁にヒンジが発生しないことの確認	電算を修正し、各数値を整合	P. 5-1 P. 320～330/431	—
8	局部崩壊時の保有水平耐力の確認	柱耐力低減を考慮「しない」場合の結果を添付	P. 5-19～34	—
9	短期地耐力の算定	荷重の傾斜角を考慮して再検討し、短期地耐力 $300\text{kN/m}^2 \rightarrow 200\text{kN/m}^2$ に変更	P. 6-4～10	S-01
10	スラブの荷重伝達方向	DS1, DS2（フラットスラブ）の荷重伝達方向 Y方向→両方向に修正	P. 23/431 P. 411/431	—
11	スラブによる拘束	Z02層A通り2-3間、B通り7-8間について、スラブの拘束を非考慮に修正	P. 422/431	—

12	構造設計方針	層間変形角算出階高：梁芯間距離→梁天端間距離に修正	P. 1-4	—
13	デッキスラブの設計	検討No. 3：P→Fに修正	P. 3-24	—
14	構造図	<p>S-07：QLデッキの支保工「有」→「無」に修正</p> <p>S-16：ラップル底レベルGL-2150→GL-2350に修正</p> <p>S-17～18：小梁の位置寸法を追記</p> <p>S-19～20：平均地盤面を特記外に追記</p> <p>S-20：2通り軸組図と特記外にファブラックスDS（DS35）を追記</p> <p>S-22：F10の基礎面～柱芯距離を修正</p> <p>S-23：SS3修正に伴い、FG3上端主筋3/2-D22→3/3-D22に変更 また、カットオフ1900→2100に変更</p> <p>S-24：SS3修正に伴い、2C2板厚：9→12に変更</p> <p>S-25：ガラス受け材：□-40x100x2.3→□-100x40x2.3に修正</p> <p>S-26：「RG1-HB150についても、同様の納まりとする」を追記</p>	—	<p>S-07</p> <p>S-16～S-20</p> <p>S-22～S-26</p>